札幌医誌 **26** (3) 158～167 (1964)

札幌医科大学における1963年度泌尿器科外来入院患者及び手術々式の統計的観察

高井修道　垂水　泰　清水光博
児玉直彦　井川欣市　森田茂豊
島村昭吾　佐々木恒臣　和田富幸
辺見　泉　安達　徹　池田　務
田宮高宏　疋田政博　門野雅夫
札幌医科大学泌尿器科教室（主任　高井教授）

Statistics on Outpatients, Inpatients and Operations in the Department of Urology at the Sapporo Medical College in 1963

Shudo TAKAI, Yutaka TARUMI, Mitsuhiro SHIMIZU, Naohiko KODAMA, Kinichi IGAWA, Shigetoyo MORITA, Shogo SHIMAMURA, Tsuneomi SASAKI, Tomisachi WADA, Izumi HENMI, Toru ADACHI, Tsutomu IKEDA, Takahiro TAMIYA, Masahiro HIKITA, and Masao KADONO
Department of Urology, Sapporo Medical College
(*Chief*: *Prof. S. Takai*)

Statistical observations were made on urological diseases of outpatients, inpatients and operations in the department of Urology, Sapporo Medical College during 1963.

1) The total number of outpatients was 1,947. Among these 1,077 were male and 870 were female. The ratio of male against female was 1.24 : 1. The break down of the main diseases was as follows: 241 urogenital tuberculosis, 83 urolithiasis. 35 bladder tumor cases.

2) The number of outpatients less than 15 years of age was 230 : 160 male and 73 female.

3) The number of outpatients more than 60 years of age was 230 : 160 male and 70 female.

4) The total number of inpatients was 283 with 39 renal tuberculosis, 25 renal and ureteral stone, 2 renal tumor, 28 bladder tumor and 38 Prostatic tumor cases.

5) The total number of the operations was 259 and that of transurethral manipulations was 282 with 36 nephrectomies, 14 ureterocystoneostomies, 3 total cystectomies, 8 ileal conduit plasties, 12 prostatectomies and 26 TURP.

われわれは，札幌医科大学泌尿科教室における1963年度(昭和38年)泌尿器科外来，入院患者及び手術々式について統計的観察を行なったので報告する。

外来・入院患者の統計

I. 外来患者：1963年度1年間に札幌医科大学泌尿器科外来を訪れた泌尿器科新来患者総数は1,947名で，そのうち男1,077名，女870名，男女比は1.24：1である。

年齢別で見ると20歳から39歳までが最も多く43.4%を占め，次いで40歳から59歳が28.5%である。また15歳以下の小児では男169名，女73名で男：女の比は2.31：1である。60歳以上の老人では男160名，女70名で，男女比は2.28：1となる（第1表)。

主要疾患別に観察すると，泌尿性器結核は241名(12.4%)で前年に比べ15名減少している。非結核性膀胱炎400名(20.5%)，尿路結石症83名(4.3%)，膀胱腫瘍35名(1.8%)，前立腺腫瘍99名(5.1%)，その他1,089名(55.9%)であった（第2表)。

1) 泌尿性器結核：泌尿性器結核は1956年の318名(20.59%)，1957年の328名(21.3%)，1958年283名(18.9%)，1959年330名(18.95%)，1960年324名(18.2%)，1961年276名(15.1%)と15～20%前後であり，前年の1962年は256名(13.0%)に低下したが本年は更に241名で12.4%に年々減少の傾向を示している。そのうち腎結核は211例で

合併症としては膀胱結核が7例，副睾丸結核30例，前立腺結核21例などがあるが，詳細は分類と合併症との関係は第3表に示される（第3表）。

2）尿路結石症：尿路結石症は前年の109例（5.6%）に対し83例（4.3%）と減少している。部位別に観察すると腎結石17例，尿管結石42例，膀胱結石7例，前立腺結石7例などが主なものである（第4表）。

第1表　外来患者性別年齢別統計

年　齢（歳）	男	女	計（%）
0 ～ 9	129	43	167（8.6）
10 ～ 19	92	57	149（7.7）
20 ～ 29	247	192	439（22.6）
30 ～ 39	214	191	403（20.8）
40 ～ 49	128	197	323（16.7）
50 ～ 59	112	120	230（11.8）
60 ～ 69	93	55	148（7.6）
70 以上	67	15	82（4.2）
計	1,077	870	1,947

新患総数　1,947名
男　1,077名
女　870名
男：女＝1.24：1

3）泌尿性器腫瘍：泌尿性器腫瘍は169名であり腎実質腫瘍4例（術後3例）で前年より少ない。また膀胱腫瘍は31例（術後12例，再発7例）で前年の37例（術後19例，再発1例）より少ない。前立腺腺瘍は99例でそのうち前立腺肥大症73例（術後18例），前立腺肥大症兼癌9例（術後4例），前立腺癌15例（術後2例，疑4例）となっている。この他，陰茎癌2，陰嚢癌1例，睾丸腫瘍8例（術後4例）などがある（第5表）。

4）その他の疾患：結核，結石及び腫瘍を除く泌尿器疾患を臓器別に観察すると次のとおりである。

A）腎及び尿管疾患：遊走腎26例，水腎症19例，重複腎盂尿管25例，腎性血尿18例などが目だつ（第6表）。

B）膀胱疾患：膀胱疾患は527例でそのうち膀胱炎400例で大半の76%を占め，更にこのうち女子は66.9%である。その他は神経因性膀胱32例，膀胱神経症41例，膀胱

第2表　外来患者主要疾患

泌尿性器結核	241名	12.4%
非結核性膀胱炎	400	20.5
尿路結石症	83	4.3
膀胱腫瘍	35	1.8
前立腺腫瘍	99	5.1
その他	1,089	55.9

第3表　泌尿性器結核とその合併症

主疾患	男	女	計	合併症																計
				膀胱結核		左副睾丸結核	右副睾丸結核	両側副睾丸結核	副睾丸結核術後	精嚢腺結核	精嚢結核術後	前立腺結核	尿道狭窄	萎縮膀胱	萎縮膀胱術後	尿管狭窄	尿管狭窄術後	骨関節結核	睾丸結核	
				男	女															
左腎結核	14	14	28	1		1	1	1				4				1			1	10
右〃	12	14	26	4			1	1	2	1		3					1			13
両〃	6	15	21	1	1	1	1	1	2			4	2	1			1			15
腎結核術後単腎	27	49	76				1	3	10			4	1	7	1	1	1			29
残腎結核	10	23	33					1	1			3		4			3	1		13
〃	1	2	3						1											1
腎結核		2	2																	
〃	12	10	22			1														1
左副睾丸結核	7		7							1		2								3
右〃	5		5	1																1
両側睾丸結核	3		3									1								1
副睾丸結核術後	12		12																	1
前立腺結核	3		3																	
計	112	129	241	7	1	3	4	7	16	2		21	4	12	1	2	6	1	1	88

第4表　尿路結石症 (外来)

	男	女	計
腎結石	5	6	11
〃　術後	2	4	6
尿管結石	26	7	33
〃　術後	9		9
膀胱結石	3	1	4
〃　術後	2	1	3
前立腺結石	4		4
〃　術後	3		3
尿路結石 (自然排出)	4	3	7
上部尿路結石疑	1	2	3
計	59	24	83

第5表　泌尿器性器腫瘍 (外来)

疾患名	男	女	計
腎実質腫瘍		1	1
〃　術後	1	2	3
腎盂腫瘍	1		1
〃　疑	1		1
腎腺腫		1	1
尿管腫瘍	1	1	2
腹膜後腔腫瘍	2	1	3
〃　疑	1	2	3
膀胱腫瘍	8	4	12
〃　術後	9	3	12
〃　再発	7		7
膀胱後腔腫瘍	2		2
〃　疑	1	1	2
炎症性尿膜管腫瘍	1	2	3
前立腺肥大症	55		55
〃　術後	18		18
〃　兼結石	1		1
前立腺癌	9		9
〃　術後	2		2
〃　疑	4		4
前立腺肥大症兼癌	5		5
〃　術後	4		4
尿道癌術後	1		1
陰茎癌	2		2
睾丸腫瘍	4		4
〃　術後	4		4
陰嚢癌	1		1
子宮癌尿管侵襲		4	4
〃　疑		1	1
胃癌尿管侵襲	1	1	2
計	146	24	170

第6表　腎及び尿管疾患 (外来)

疾患名	男	女	計
遊走腎	8	18	26
水腎症	7	12	19
〃　術後	2	5	7
膿腎症	1	1	2
発育不全腎		2	2
〃　術後		1	1
嚢胞腎	3	6	9
〃　術後	1	2	3
腎嚢胞	2	3	5
〃　術後		1	1
〃　疑	1	2	3
馬蹄鉄腎		1	1
萎縮腎		1	1
腎性血尿	7	11	18
腎廻転異常	2		2
腎不全	2		2
腎性佝僂病疑	1		1
重複腎盂尿管	9	16	25
腎炎	1	2	3
腎盂腎炎	1	7	8
〃　疑	2		2
ネフローゼ	2		2
腎性高血圧	2	1	3
〃　疑	1	1	2
腎破裂	2		2
〃　術後	1		1
腎杯憩室	2	2	4
〃　兼結石	1		1
〃　術後		1	1
腎石灰沈着症	2		2
水尿管	1		1
尿管狭窄		2	2
〃　術後		2	2

疾患名	男	女	計
尿管瘤		1	1
〃　術後		1	1
尿管異常開口		1	1
〃　術後		1	1
尿管結紮		1	1
尿管腟瘻		1	1
尿管ポリープ術後		1	1
計	64	107	171

第7表　膀胱疾患（外来）

疾患名	男	女	計
急性膀胱炎	28	175	203
出血性　〃	15	9	24
濾胞性　〃		22	22
滲出性　〃		1	1
三角部　〃		2	2
慢性　〃		12	12
放射線性〃	3	5	8
尿道　〃		119	119
腎盂　〃	1	8	9
膀胱憩室	4	1	5
〃　術後	1		1
膀胱腟瘻		6	6
〃　術後		4	4
膀胱直腸瘻		2	2
〃 直腸腟瘻		2	2
〃 頸部狭窄	1		1
〃 頸部ポリープ		1	1
膀胱脱		2	2
〃　術後		1	1
神経因性膀胱	19	13	32
膀胱神経症	21	20	41
〃 過敏症	6	9	15
〃 周囲炎		1	1
〃 白板症		7	7
〃 異物	3	2	5
〃 異物兼結石		1	1
計	102	425	527

第8表　尿道疾患（外来）

疾患名	男	女	計
単純性尿道炎	45	4	49
急性淋菌性尿道炎	21		21
トリコモナス尿道炎	2		2
先天性尿道狭窄術後	1		1
尿道狭窄	9	2	11
〃　術後	2		2
淋疾後性尿道狭窄	12		12
外傷性　〃	5		5
尿道破裂	5		5
〃　術後	6		6
尿道下裂	14		14
〃　術後	1		1
傍尿道口部嚢腫	2	1	3
尿道カルンケル		29	29
尿道脱		2	2
尿道直腸瘻	1		1
Balanitis xerot. oblit.	1		1
尿道異物	2		2
〃　結石	1		1
尿道瘻	1		1
仮性尿道	1		1
計	132	38	170

腟瘻6例などがある（第7表）。

C）尿道疾患：単純性尿道炎が49例で一番多く，次いで急性淋疾21例となっている。尿道狭窄30例（術後2例），尿道破裂11例（術後6例），尿道下裂15例（術後1例）があり，その他カルンケル29例が目だっている（第8表）。

D）前立腺，睾丸，副睾丸及び精嚢腺疾患：前立腺炎24例（疑1例），前立腺症29例，停留睾丸21例（術後1例），単純性副睾丸炎25例，陰嚢水瘤30例（術後2例）などがおもなものである（第9表）。

E）陰茎及び女子外陰部疾患：包茎26例，亀頭包皮炎29例，陰門腟炎9例，Klinefelter 氏症候群1例，睾丸性女性化症1例などがみられた（第10表）。

F）その他の疾患：夜尿症33例，これは前年の59例に比べ減少している。神経性頻尿41例，無精子症16例，減精子症22例などが目だつ（第11表）。

5）小児の泌尿器疾患：15歳以下の小児患者総数は242名で男子169名，女子73名で前年に比べ15名増加している。腎尿管及び膀胱疾患では，水腎症3，尿管異常開口4

第9表　前立腺睾丸副睾丸及び精嚢腺疾患（外来）

前立腺炎	23
〃　疑	1
前立腺症	29
〃　疑	1
停留睾丸	20
〃　術後	1
睾丸発育不全	3
〃　萎縮	3
単睾丸症	1
遊走睾丸	6
睾丸破裂	3
〃　打撲	4
〃　過敏症	13
〃　類上皮腫	1
単純性副睾丸炎	25
副睾丸炎術後	2
精液瘤	3
陰嚢水瘤	28
〃　術後	2
陰嚢癌	1
陰嚢リポーム	1
〃　内血腫	1
精系水瘤	3
〃　術後	1
精系静脉瘤	1
精嚢腺炎	2
血精液症	10
計	190

第10表　陰茎および女子外陰部疾患（外来）

疾患名	男	女	計
包茎	26		26
〃　術後	1		1
亀頭包皮炎	29		29
尖圭コンジローム	3		3
亀頭裂傷	1		1
〃　潰瘍	4		4
陰茎持続勃起症	1		1
陰茎癌	2		2
〃　打撲	1	1	2
陰唇　〃		1	1
陰茎成形術後	1		1
陰門膣炎		9	9
陰唇融合		1	1
Klinefelter 氏症候群	1		1
睾丸性女性化症	1		1
Turner 氏症候群の疑	1		1
計	71	13	84

第11表　その他の疾患（外来）

疾患名	男	女	計
夜尿症	20	13	33
神経性頻尿	21	20	41
尿失禁	7	20	27
無尿	1		1
無精子症	16		16
減　〃	22		22
性的神経衰弱	13		13
陰萎	3		3
乳糜尿症		1	1
蛋白尿	8	5	13
血尿	4	4	8
尿閉	2	3	5
Cushing 氏症候群		1	1
副腎性器症候群		1	1
潛伏梅毒	2		2
泌尿器科的正常	175	130	305
計	294	198	492

第12表　腎腺管及び膀胱疾患（外来小児）

疾患名	男	女	計
腎結核術後	1		1
腎結石　〃	1	1	2
水腎症	1	2	3
腎破裂	1		1
発育不全腎		1	1
嚢胞腎	1	1	2
腎廻転異常	1	1	2
腎炎		2	2
慢性腎炎		1	1

疾患名	男	女	計
腎盂腎炎	1	1	2
ネフローゼ	1		1
腎性尙僂病疑	1		1
腎性高血圧症	1		1
腎結石疑		1	1
尿管狭窄		1	1
〃 瘤術後		1	1
〃 異常開口	1	1	2
〃 異常開口術後	1	1	2
腹膜後腔腫瘍	1	1	2
〃 術後	1		1
〃 疑	1		1
急性膀胱炎	2	4	6
出血性膀胱炎	16	4	20
膀胱異物	1		1
先天性臍尿瘻		1	1
尿道結石術後	1		1
計	35	25	60

第13表　尿道・睾丸・副睾丸及び外陰部疾患（外来小児）

疾患名	男	女	計
尿道下裂	6		6
〃 術後	3		3
先天性尿道狭窄術後	1		1
真性包茎	20		20
〃 術後	3		3
亀頭包皮炎	12		12
尿道破裂	1		1
〃 異物	2		2
〃 脱		1	1
単純性尿道炎	1		1
停留睾丸	14		14
〃 術後	3		3
遊走睾丸	4		4
陰嚢水瘤	17		17
睾丸腫瘍	1		1
〃 術後	1		1
単純性副睾丸炎	3		3
陰門腟炎		7	7
陰唇融合		1	1
傍尿道嚢腫	1		1
副腎性器症候群	1		1
直腸腟瘻		1	1
外陰外傷	2	1	3
計	96	11	107

第14表　その他の疾患（外来小児）

疾患名	男	女	計
夜尿症	19	11	30
尿失禁	2	4	6
神経因性頻尿	4	6	10
〃 膀胱	2	3	5
尿閉	1	1	2
血尿	1	1	2
蛋白尿	2	1	3
泌尿器科的正常	26	11	37
計	57	38	95

例（術後2例），腹膜後腔腫瘍4例（術後1例，疑1例），出血性膀胱炎20例が最も多い疾患となっている他，急性膀胱炎6例などがみられる（第12表）。尿道性器疾患としては尿道下裂9例（術後3例），真性包茎20例，停留睾丸17例（術後3例），陰嚢水瘤17例などがあり（第13表），その他の疾患では夜尿症の30例が圧倒的に多く，次いで神経因性頻尿10例が目だっている（第14表）。

6）老人の泌尿器疾患：60歳以上の老人新患総数230名で男160名，女70名である。腎及び尿管疾患としては，腎結核3例（術後2例）と前年の8例に比べ減少し，腎結石3例，腎腫瘍2例（術後1例），遊走腎5例，腎性血尿4例などがある（第15表）。

膀胱疾患では膀胱炎37例，膀胱腫瘍14例（術後5例），神経因性頻尿5例，神経因性膀胱4例などが主なものである（第16表）。

前立腺及び尿道疾患には前立腺肥大症65例（術後18例）と前年の45例に比べかなり増加している。前立腺肥大症兼癌9例（術後4例），前立腺癌13例（術後2例，疑4例），前立腺症6例，尿道カルンケル9例などがみられる（第17表）。なお前立腺肥大症兼癌は全例ともに60歳以上の老人にみられたことは他年齢層に比し異なるところである。陰嚢内疾患及びその他の疾患では，副睾丸結核3例，陰嚢水瘤5例，陰嚢癌1例などがみられた（第18表）。

第15表　腎及び尿管疾患（外来老人）

疾患名	男	女	計
腎結核	1		1
〃　術後		2	2
腎結石	2	1	3
腎実質腫瘍		1	1
〃　術後		1	1
腎盂腫瘍術後	1		1
腎杯憩室結石	1		1
水腎症		1	1
水腎症術後		1	1
腎盂腎炎		1	1
腎不全	1		1
膿腎症	1		1
腎嚢胞		1	1
〃　術後		1	1
〃　疑	1		1
遊走腎	2	3	5
腎性血尿		4	4
腎性高血圧症	1		1
重複腎盂尿管		1	1
尿管結石		1	1
〃　腫瘍	1		1
子宮癌尿管侵襲		1	1
計	12	20	32

第16表　膀胱疾患（外来老人）

疾患名	男	女	計
急性膀胱炎	2	17	19
尿道　〃		14	14
放射性膀胱炎	2	1	3
濾胞性　〃		1	1
膀胱結石術後	1	1	2
膀胱腫瘍	8	1	9
〃　術後	3	2	5
膀胱憩室	3		3
〃　術後	1		1
神経因性頻尿	1	4	5
〃　膀胱	3	1	4
膀胱異物	1		1
夜尿症	2		2
膀胱脱		1	1
計	27	42	69

第17表　前立腺・尿道及び陰茎（外来老人）

疾患名	男	女	計
前立腺肥大症	47		47
〃　術後	18		18
〃　兼癌	5		5
〃　兼癌術後	4		4
〃　兼結石	1		1
前立腺癌	7		7
〃　術後	2		2
〃　疑	4		4
前立腺結石	2		2
〃　術後	3		3
前立腺炎	1		1
結核性前立腺炎	1		1
前立腺症	6		6
尿道狭窄	2		2
淋疾後尿道狭窄	3		3
〃　術後	1		1
尿道破裂	1		1
傍尿道嚢腫	1		1
尿道カルンケル		9	9
単純性尿道炎	2		2
亀頭炎	1		1
計	112	9	121

第18表　陰嚢内疾患その他（外来老人）

疾患名	男	女	計
副睾丸結核	3		3
単純性副睾丸炎	3		3
陰嚢水瘤	5		5
〃　癌	1		1
性的神経衰弱	1		1
潛伏梅毒	1		1
泌尿器科的正常	13	6	19
計	27	6	33

II.　入院患者：1963年の入院患者総数は283名で，男187名，女96名であった。主要疾患別に観察すると，腎結核39例（13.9%），腎及び尿管結石25例（9.0%），腎腫瘍2例（0.7%），膀胱腫瘍28例（10.0%），前立腺腫瘍38例（13.4%）となっている（第19表）。更に入院患者の疾患を臓器別に分類すると次ぎのとおりである。

第19表　入院患者主要疾患

入院患者総数	283名	腎盂腫瘍	1名
腎結核	39	膀胱腫瘍	28
腎及び尿管結石	25	前立腺腫瘍	38
腎実質腫瘍再発	1	その他	147

第20表　腎及び尿管疾患（入院）

腎結核	36	腎盂腎炎	1
〃　術後	3	重複腎盂尿管	1
腎結石	10	尿管結石	13
腎盂切石術後瘻孔形成	1	〃　術後	1
腎実質腫瘍再発	1	尿管狭窄	6
腎盂腫瘍	1	〃　術後	1
腹膜後腔腫瘍	2	尿管瘤	1
腎石灰化症	1	尿管瘻	1
水腎症	13	腎周囲炎	1
嚢胞腎	4	尿管異常開口	1
腎嚢胞	3	原発性尿管癌	1
腎機能不全	1	二次性尿管腫瘍	2
腎性高血圧疑	2	尿管周囲炎	1
遊走腎	1		
腎破裂	1		
腎出血	10	計	121

第21表　膀胱疾患（入院）

膀胱腫瘍	17	神経因性膀胱	9
〃　術後再発	11	膀胱腟直腸瘻	2
膀胱後腔腫瘍	1	膀胱腸瘻	1
膀胱結石	4	先天性尿膜管開存症	1
〃　術後	1	炎症性尿膜管腫瘍	2
膀胱憩室	2	膀胱潰瘍	1
膀胱異物結石	1	膀胱炎	2
結核性萎縮膀胱	5	膀胱白板症	2
膀胱瘤	1		
膀胱腟瘻	3		
〃　術後	1	計	67

1)　腎及び尿管疾患：腎結核39例（術後3例），腎結石10例，腎腫瘍2例，水腎症13例，尿管狭窄7例（術後1例）などがある（第20表）。

2)　膀胱疾患：膀胱腫瘍28例（再発11例）は前年の18例に比べ10例の増加である。膀胱結石5例（術後1例），結核性萎縮膀胱5例，膀胱腟瘻4例（術後1例），神経因性膀胱9例などがある（第21表）。

手術々式の統計

1963年度における総手術患者は259名で，経尿道的操作は282回である。

1)　入院手術：入院手術患者は227名であるが，これを手術々式別にみると，腎剔除術36回（腎尿管全剔術2回），尿管切石術13回，尿管膀胱新吻合術14回，膀胱部分切除術12回，尿道成形術13回，副睾丸剔除術11回などがあり，腎動脈撮影は12回行なわれた（第24表）。

第22表　前立腺・精嚢腺及び尿道疾患（入院）

前立腺肥大症	23	外傷性尿道狭窄	1
〃　術後	4	〃　術後	1
〃　兼癌	5	尿道狭窄	2
前立腺癌	6	〃　術後	1
〃　結石	1	尿道断裂	4
前立腺症	4	〃　術後	1
〃　術後	1	尿道下裂	3
慢性前立腺炎	1	尿道癌	1
前立腺結核	6	カルンクルス	2
血精液症	1	尿道嚢腫	1
後部尿道弁膜形成	1	尿道直腸瘻	1
淋疾性尿道狭窄	2		
結核性　〃	2	計	75

第23表　陰茎・陰嚢内疾患その他（入院）

陰茎持続勃起症	1	陰嚢癌	1
陰茎癌	2	陰唇癌合	1
閉塞性乾性亀頭炎	1	Klinefelter 氏症候群	1
真性包茎	1	睾丸性女性化症	1
陰茎瘻孔	1	尖圭コンヂローム	1
睾丸腫瘍	4	尿失禁	3
停留睾丸	7	排尿障害	1
単睾丸症	1	尿閉	1
睾丸破裂	1	無尿	1
結核性睾丸炎	1	乳糜尿	1
外傷性睾丸萎縮	1	Cushing 氏症候群術後	1
副睾丸炎	2	泌尿器科的正常	2
副睾丸結核	9	他科疾患	4
〃　術後	2		
陰嚢水瘤	5		
陰嚢内血腫	1	計	60

第24表　手　術　々　式

腎剔除術	34	廻腸膀胱成形術	8	精索試切	1
腎尿管剔除術	2	膀胱腟瘻閉鎖術	2	腹膜後腔腫瘍剔出術	2
腎固定術	2	前立腺試切	15	副腎剔除術	1
腎瘻術	1	恥骨上式前立腺剔除術	5	腎動脈撮影	12
嚢胞腎穿刺術	3	恥骨後式　〃	6	精嚢腺撮影	2
〃　壁試切	2	会陰式　〃	1	試験開腹術	5
腎盂形成術	2	前立腺切石術	1	腸切除術	2
〃　切石術	2	尿道成形術	13	虫垂切除術	1
腎切石術	4	〃　下裂索切除	3	人工肛門造設術	6
尿管切石術	13	〃　嚢腫剔除術	1	卵巣試切	2
〃　ポリープ剔出術	1	〃　腫瘍　〃	1	〃　剔除術	2
〃　瘻術	8	〃　癌 C_0^{60} 打込	1	〃　嚢腫剔除術	1
〃　剝離術	4	陰茎癌剔除術	1	子宮全剔除術	1
〃　膀胱新吻合術	14	〃　試切	3	瘻孔閉鎖術	17
膀胱高位切開術	9	包茎手術	3	頸部リンパ試切	1
〃　瘻術	1	除睾除	10	鼠径　〃	2
〃　部分切除術	12	根治的除睾術	4	リンパ廓清術	2
〃　全剔除術	3	睾丸試切	4	骨盤内臓器剔除術	1
〃　切石術	4	〃　固定術	4	外性器全　〃	2
〃　頸部成形術	6	副睾丸剔除術	11	電気凝固術	1
〃　頸部吊り上術	3	陰嚢水瘤根治手術	5		
〃　固定術	1	〃　試切	1	計	301回
尿膜管剔除術	2	〃　癌ラジウム照射	1	総計	227名

第25表　外　来　手　術

睾丸試切	10
包茎手術	10
精管結紮	4
精嚢腺撮影	14
尿道カルンケル電気凝固	1
計	39
総計	32名

第26表　内視鏡的操作

経尿道的前立腺切除術	26
〃　膀胱頸部切除術	10
〃　膀胱腫瘍電気切除術	19
〃　電気凝固術	13
尿管カテーテル法	181
腹膜後腔気体送入＋尿管カテーテル法	33
計	282

2) 外来小手術：精管結紮4回，包茎手術10回などがあり，睾丸試切と精嚢腺撮影は多くの場合同時に行ない，それぞれ10回と14回であり外来手術総数は39回である(第25表)。

3) 内視鏡的操作：内視鏡的操作は入院外来合計282回であり，経尿道的前立腺切除術26回，経尿道的膀胱頸部切除術10回，経尿道的膀胱腫瘍電気切除術19回，尿管カテーテル法181回，腹膜後腔気体送入＋尿管カテーテル法33回などである(第26表)。

総括ならびに結語

札幌医科大学泌尿器科教室における，1963年度泌尿器科外来入院患者及び手術々式について統計的観察を行なった。

1) 外来患者について：外来新患総数は1,947名で，男1,077名，女870名で男女比は1.24:1である。

泌尿性器結核は241名(12.4%)で前年に比べ15名減少し，また過去5カ年間における平均290例(16.8%)に比べかなり減少している。

尿路結石症は83例で前年より26例減少しているが，尿管結石が33例で圧倒的に多い。

泌尿性器腫瘍は170例で腎実質腫瘍は前年より少なく1例，膀胱腫瘍は31例で前年より減少しているが，全実症例数では13例の増加をみている。このうち前立腺腫瘍が99例で22例増加している。

その他遊走腎，水腎症，腎性血尿，急性膀胱炎，神経因性膀胱，陰嚢水瘤，包茎，夜尿症，神経因性頻尿などが多くみられる疾患であるが，男性不妊症として無精子症16例，減精子症22例がみられた。

2) 小児外来患者について：小児外来患者は242名で前年度に比べて15名増加している。男169名，女73名で男女比は2.17:1である。出血性膀胱炎，停留睾丸，陰嚢水瘤，夜尿症などが比較的多くみられる。

3) 老人外来患者について：老人外来患者は230名で男160名，女70名，男女比は2.3:1である。おもな疾患は膀胱炎47例，膀胱腫瘍14例，前立腺肥大症65例となっており，前立腺腫瘍は88例でこの年齢層に圧倒的に多い。

4) 入院患者について：入院患者総数は283名で前年度に比べ39名増加し，男187名，女96名，男女比は1.95:1である。主な疾患としては腎結核39例，腎及び尿管結石25例，膀胱腫瘍28例，前立腺腫瘍38例などがみられた。

5) 手術々式について：手術回数は301回で，前年度より61回多い。内視鏡的操作は282回である。おもな手術々式は腎剔除術34回，尿管切石術13回，尿管膀胱新吻合術14回，前立腺剔除術12回，回腸膀胱成形術8回，経尿道的前立腺切除術26回などである。

（昭和39.9.21受付）